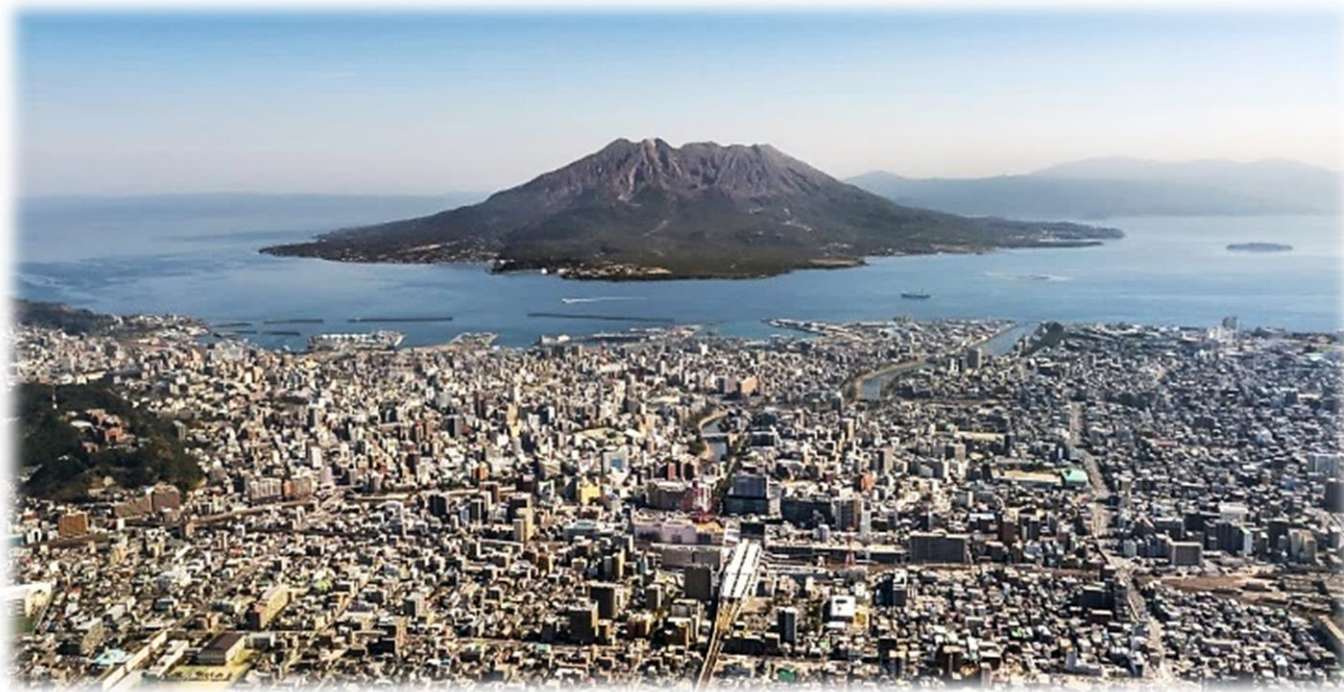


「桜島と共生する“選ばれる都市”・ マグマシティ鹿児島市」推進事業



鹿児島市



自治体SDGsモデル事業の概要（三側面の取組）



課題

住み続けたい、訪れてみたいまちとして“選ばれる都市”づくり

経済面の取組

交流人口の拡大と“稼ぐ”観光・産業戦略の展開

- ◆ “まちの新たな装い”を形成し、にぎわいを生む都市拠点の再開発
- ◆ “海の玄関”鹿児島港本港区エリアの魅力向上と“陸の玄関”鹿児島中央駅との結節強化
- ◆ 観光の魅力づくりと受入体制のさらなる充実
- ◆ “食の都”としてのブランド力向上
- ◆ 新産業の創出及びクリエイティブ産業の育成・活用



官民連携による“稼ぐ観光”の実現

地域産業の競争力強化



社会面の取組

“ずっと住み続けたい”安心安全なまちづくり

- ◆ 世界基準の安心安全なまちづくり“セーフコミュニティ”
- ◆ 危機や災害に強いまちづくり
- ◆ “地域の子カラ”の活性化
- ◆ “子育てをするなら鹿児島市”の推進



市民が“ずっと住み続けたい”と感じられる安心安全なまちの実現

大都市圏からの移住の促進



環境面の取組

環境負荷の少ない人と自然にやさしいまちづくり

- ◆ 「ゼロカーボンシティかごしま」の推進
- ◆ うるおいのある快適な空間の創出
- ◆ きれいで住みよい環境づくり
- ◆ 自転車を生かしたまちづくり
- ◆ LRTネットワークの機能強化



脱炭素社会の実現

うるおいと安らぎを感じられる快適な生活環境





◆三側面をつなぐ統合的取組の事業名

鹿児島島のシンボル“桜島”を生かした 都市ブランド力の向上・交流連携深化事業

本市のシンボルである桜島がもたらす豊かな地域資源に加え、活火山のリスクをも最先端の火山防災モデルの確立によりプラスに変え、都市ブランド力の向上を図るとともに、多様なステークホルダーの交流・連携プラットフォームの構築等により、SDGsを共通目標として課題解決に取り組み、地域活性化の好循環につなげる。

マグマシティの推進～都市ブランド力の向上と
交流・関係人口
の拡大～

SDGs 推進
プラットフォームの構築

戦略的な「マグマ
シティ鹿児島市」
プロモーションの
推進

火山防災トップシ
ティ構想の推進によ
るブランド力向上

活火山桜島の
観光資源としての
ブランド力向上

多様なステー
クホルダーの
交流・連携
プラット
フォーム構築

環境学習の
拠点施設
「かごしま環境
未来館」を核
とした情報発信、
人材育成等

都市ブランド力の向上

交流・関係人口の拡大

SDGsの全市への普及展開

地域活性化の好循環



三側面をつなぐ統合的取組（補助対象事業の概要）



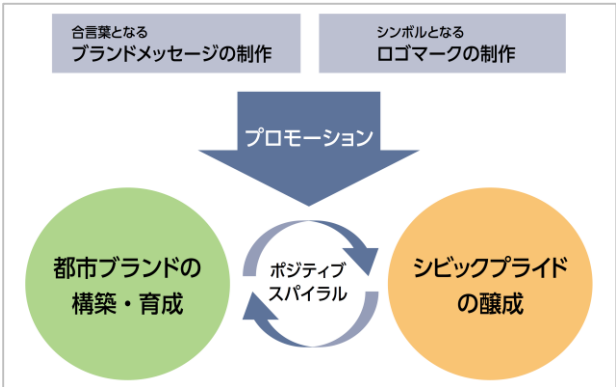
1. マグマシティの推進～都市ブランド力の向上と交流・関係人口の拡大～

(1) 戦略的な「マグマシティ鹿児島市」プロモーションの推進

- ブランドメッセージ「あなたとわくわく マグマシティ」を合言葉として、都市ブランドを構築

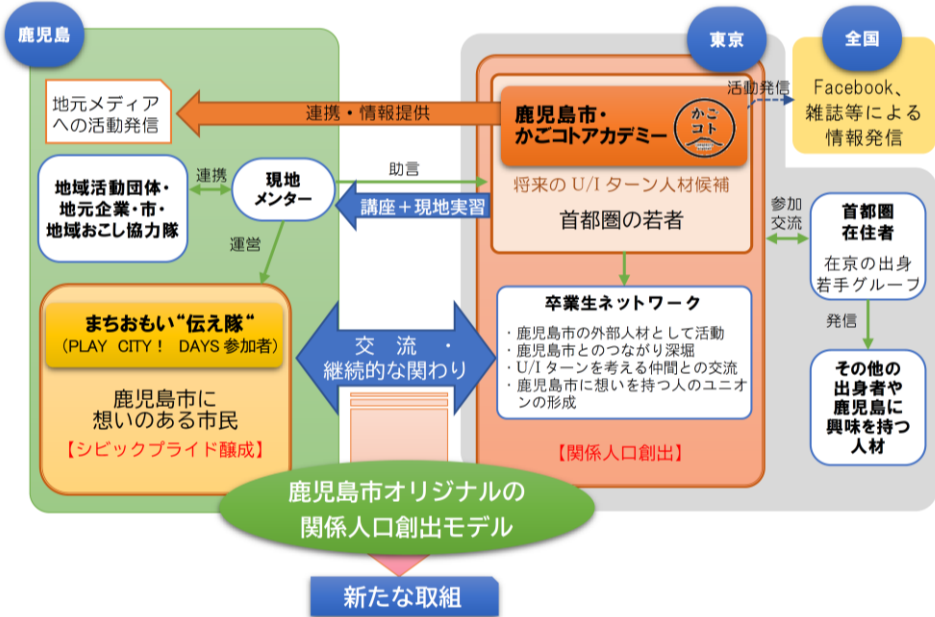
◆主な取組

かごしま“自分ごと”発見・体験講座とまちおもしろ“伝え隊！”育成事業の相乗効果による鹿児島市オリジナルの関係人口創出モデル



鹿児島市ブランドメッセージ浸透拡散事業～通称 マグマシティ計画～

- ブランディングキャンペーン等の展開





1. マグマシティの推進～都市ブランド力の向上と交流・関係人口の拡大～

（2）火山防災トップシティ構想の推進によるブランド力向上

- 本市がこれまでさまざまな試行錯誤を経ながらその充実に努めてきた、ハード・ソフトの両面からの火山防災に係る取組は、長年の経験や実績に裏打ちされた**実効性のある対策**となっている
- これらをさらに、市民と地域、事業者、研究機関・行政が一体となって**ブラッシュアップし、最先端の火山防災モデルとして世界に発信**することにより、国内外の火山災害の被害軽減に寄与するとともに、**本市のブランド力の強化につなげる**



降灰時の迅速な道路降灰除去



避難訓練等の実施

◆主な取組

火山防災トップシティ推進事業

- 最先端の火山防災に取り組む鹿児島市を、火山の魅力も交えながら積極的に世界に情報発信する



火山都市国際会議（ナポリ）での発表

桜島大規模噴火対策研究事業

《自治体SDG s 補助金・個別事業分》

- 最先端の火山防災モデルの確立に資するため、新たに、降灰地における車両走行実験を実施するとともに、実験結果等を踏まえた火山防災対策の研究・検討を行う



火山防災ツーリズム研究事業

《自治体SDG s 補助金・個別事業分》

- 火山防災を浸透させ、ジオパークの取組と連携する中で、防災施設や火山防災を直接体感できる地域資源など火山防災ツーリズムの商品化について可能性を検証



大噴火により火山灰で埋没した鳥居



1. マグマシティの推進～都市ブランド力の向上と交流・関係人口の拡大～

（3）活火山桜島の観光資源としてのブランド力向上

- 世界的にも珍しい60万都市と活火山の共生という特性を持ち、世界認定を目指す「桜島・錦江湾ジオパーク」の活動等を通じて、火山と人と自然のつながりをわかりやすく情報発信
- 無人島となっていたが、近年再び有人島となった稀有な島である新島（桜島の北東沖合に位置）を観光資源として活用



◆主な取組

新島観光施設整備事業

《自治体SDG s 補助金・個別事業分》

- 島の手つかずの自然を残しつつ、その成り立ちなど島特有の魅力や錦江湾・桜島の景観を生かし、非日常を楽しめる場として利活用を行うため環境整備を行う



新島

桜島観光防災おもてなし強化事業

《自治体SDG s 補助金・個別事業分》

- 近年のクルーズ船来航等により、外国人観光客が増加している桜島において、火山活動の活発化や噴火警戒レベルの引上げ時の情報伝達、避難誘導等の対応を的確に実施するため、観光防災おもてなしシート（多言語説明用シート）を作成し、観光客の安全を確保する

桜島・錦江湾ジオパーク推進事業

- 桜島・錦江湾ジオパークの拡大エリアにおける日本認定など世界認定に向けた取組を進めるため、ジオパーク活動を推進するほか、桜島コンシェルジュセンターの運用など受入れ体制の充実を図る



桜島コンシェルジュセンター



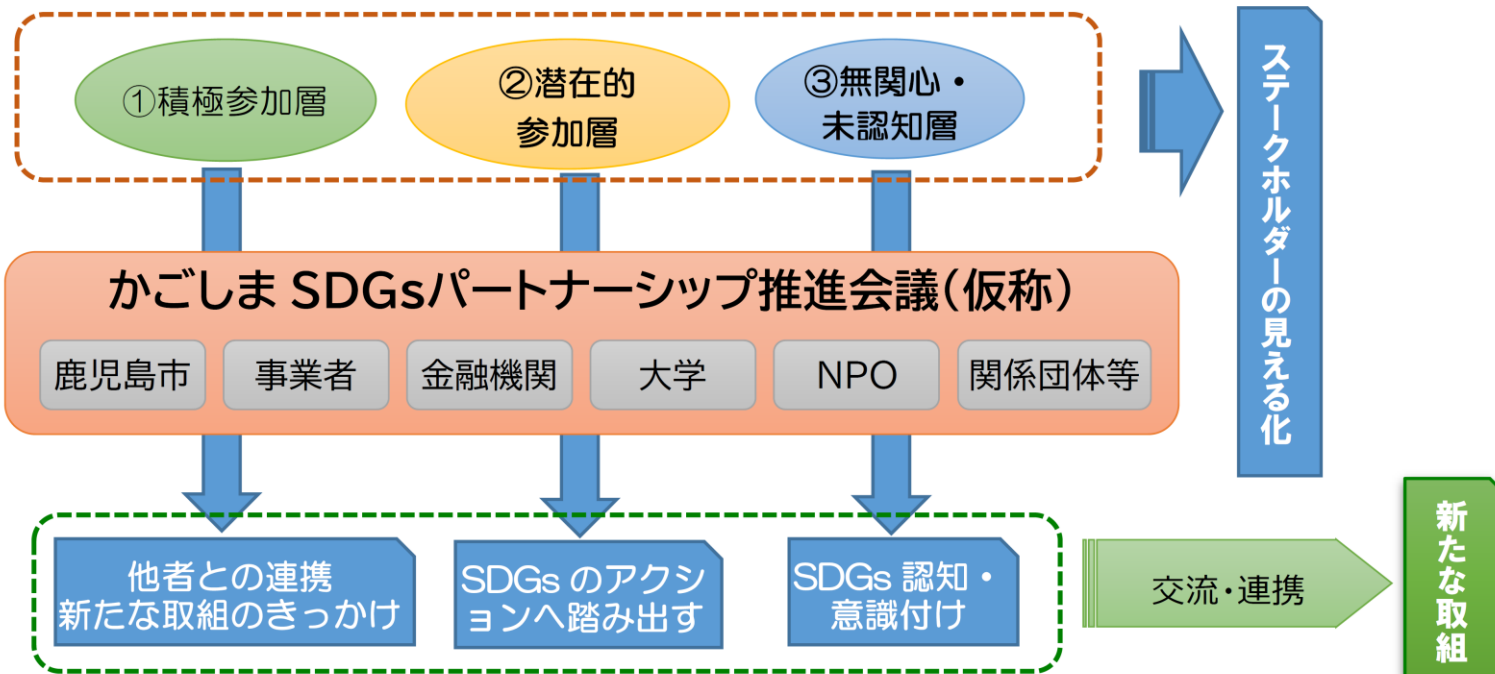
2. SDGs推進プラットフォームの構築

（1）多様なステークホルダーの交流・連携プラットフォーム構築

《自治体SDGs補助金・全体マネジメント・普及啓発分》

- 事業者、金融機関、大学、NPOなど、SDGsを共通の目標として地域の課題解決に取り組みようとする多様なステークホルダーを有機的につなぐプラットフォームを構築
- ◆ 主な取組

かごしまSDGsパートナーシップ推進会議（仮称）の新設





2. SDGs推進プラットフォームの構築

（2）環境学習の拠点施設「かごしま環境未来館」を核とした情報発信、人材育成

- 本市の環境学習の拠点施設「かごしま環境未来館」は2019年度にSDGsの視点を踏まえた展示内容のリニューアルを実施し拠点機能を強化
- 年間約12万人が利用する同館を本市におけるSDGs普及拠点として、情報発信や普及啓発、SDGs推進の人材育成に取り組む



かごしま環境未来館

◆主な取組

かごしま環境未来館における環境学習・SDGs情報発信の推進等

WWF ジャパンとの連携事業

（3）“市民の手元にSDGs”ラストワンマイルに訴求する普及・啓発事業

《自治体SDGs補助金・全体マネジメント・普及啓発分》

- 「市民が直接目にする」、「市民が直接手にする」（ラストワンマイル）ことを意識した情報発信により、市民レベルでのSDGsの認知度向上を図り、「自分ごと」としてSDGsを実感、共感する機会を創出

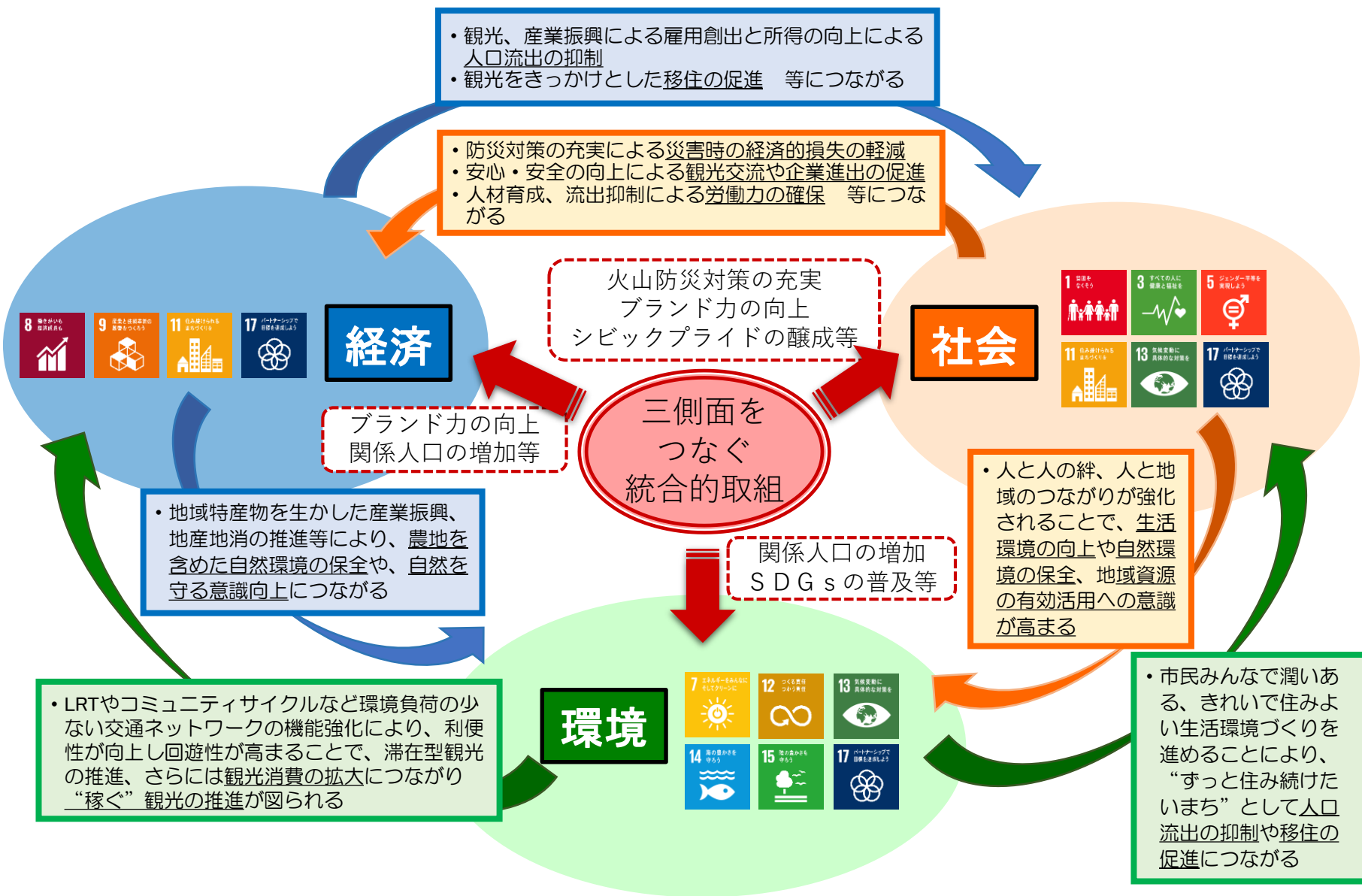
◆主な取組

SDGs普及ツール（情報誌等）の制作

SDGs周知リーフレットの制作・活用による普及啓発



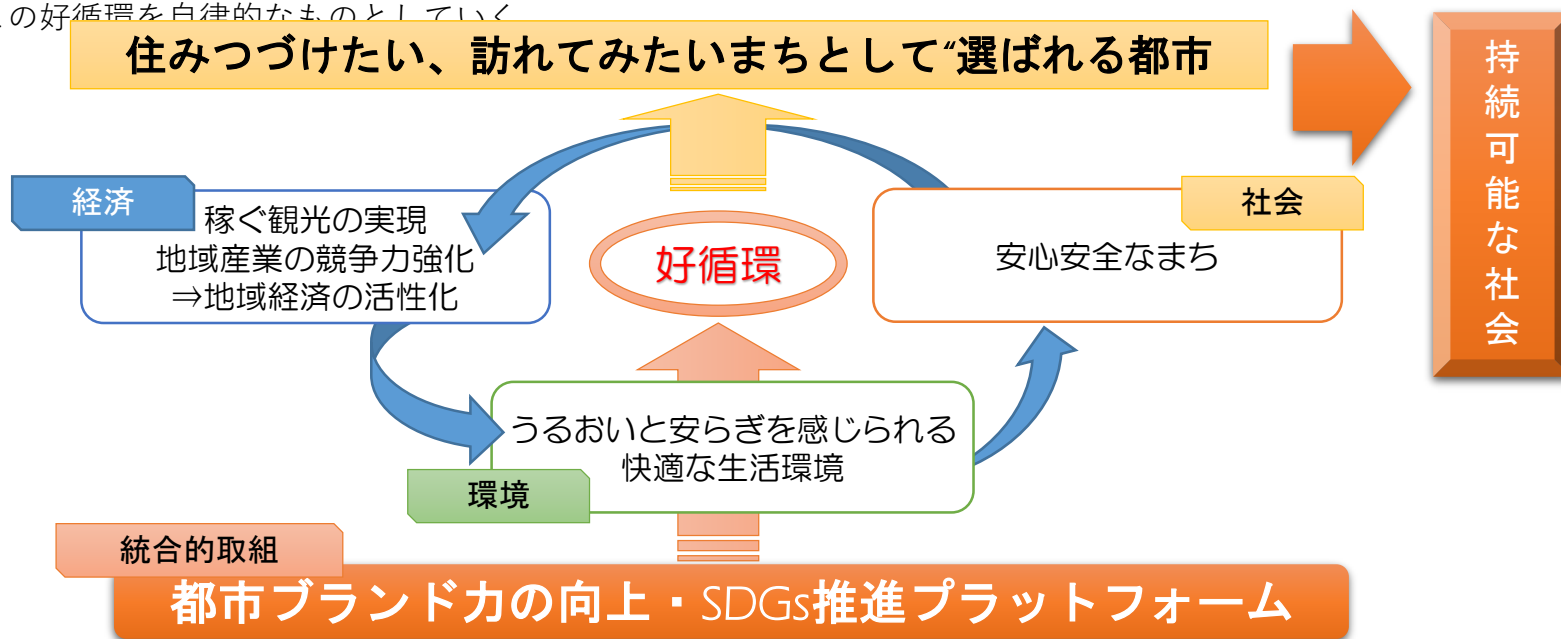
経済、社会、環境の各側面の相乗効果 (統合的取組によって生じる相乗効果)





自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

- 統合的取組により、都市のブランド力を高め、市民一人ひとりがわがまちに誇りを持つとともに、SDGsを共通の目標として、三側面の取組に、多様なステークホルダーが積極的、自律的に参画し、成果を上げる状況を生み出すことで、この好循環を自律的なものとしていく



将来的な自走に向けて

2020年 「大交流新時代」の幕開け

- ・ かがしま国体・かがしま大会の開催
- ・ 中心市街地における大規模な再開発やプロジェクト など

千載一隅の好機を活かす

